

第2章 景観重点地区の方針

1 景観重点地区の名称

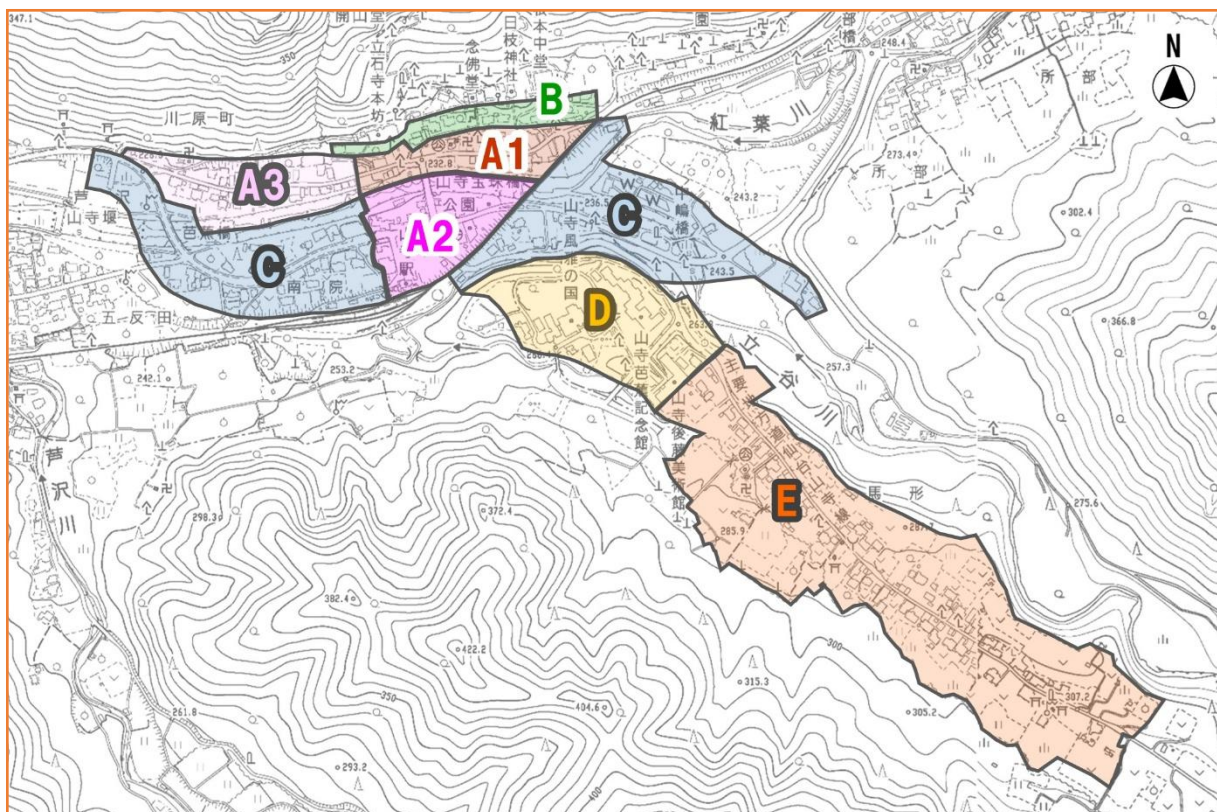
山寺景観重点地区 【令和3年3月22日指定】

2 景観重点地区の区域

山寺地区は、奥羽山系の山々に囲まれ、立谷川、紅葉川などが流れる自然豊かな地域です。その険阻な山腹に立石寺（山寺）が開かれ、周囲に市街地が発達しました。

その風光明媚な自然と格式ある歴史的な景観に相応しいまちを目指し、ここに住まう人や、ここを訪れる人にとって魅力あるまちなみの創出を図るため、立石寺五大堂などからの眺望範囲と川原町・南院地区を中心とした立石寺門前の市街地、馬形地区の歴史的風情を残し、緑豊かな景観をつくっている集落を対象とします。

なお、下図のエリア区分は、前章に記載の景観の現状や課題等を整理する際に見えてきたものです。



【景観重点地区（山寺）区域図】

前章に記載の各エリアの現状や課題を踏まえ、次の景観形成の基本方針のもと、山寺地区固有の多様な魅力を守り・生かしながら、日常の空間であり、おもてなしの場でもある集落として、人と人とのつながりのある居心地の良い場所づくり、みんなでつくる景観まちづくりを目指し、子や孫の世代に繋げる景観を保全・創出します。

自然を感じ、歴史が香る、居心地のいい景観まちづくり

主要な視点場からの良好な眺望景観の保全と活用

立石寺五大堂や芭蕉記念館など、主要な視点場から見える眺望景観について、景観重点地区の内外を含め保全します。また、身近な眺望景観の発掘のほか、眺望点相互のつながりを創出します。

彩り豊かな自然景観と調和する景観の創出

山寺地区の空間的特徴である、山に抱かれ、川に沿った集落の姿を大切にし、通りや家々からの山々や川の見え方を意識した、自然と調和した景観を創出します。

歴史や文化を生かし、個性的で魅力的な景観の創出

沿道に点在する、歴史や文化を感じる要素（歴史的な建造物や石垣や祠など）を大切にし、このまち固有の魅力ある景観を創出します。

門前の機能の充実と賑わいあふれる沿道景観の創出

山寺への導入部としての門前町の役割を高めることで、立石寺などへのいざないを意識し、来訪者も住民も歩き・語らい・楽しめる、人々で賑わう景観を創出します。